



## WTSA-24を終えて



国際電気通信連合 (ITU) 電気通信標準化局 (TSB) 局長 **おのえ せいぞう**  
**尾上 誠蔵**

### 1. はじめに

2024年10月、インド・ニューデリーにおいてITU-Tの4年に一度の総会であるWTSA-24が開催された。TSB局長就任後、最初のWTSAを迎えることとなったが、私にとってWTSAは初めての経験でもあった。様々な関係者の協力・支援があり、成功裏に終えることができたので、その経験や感想を述べたいと思う。

### 2. 従来のWTSAとの違い

WTSAとはそもそも何を議論する場かということだが、ITU-Tの今後の活動の方向性を定める各種決議、標準化の作業を実際に行うStudy Group (SG) の議長・副議長の選出などが主なテーマであり、加盟国が中心となって議論することから参加者はおのずとITU-Tの関係者が中心となる。一方で今回のWTSAでは、魅力あるサイドイベントを多数企画したことで、多くの参加者・ステークホルダーを集めたイベントとなり、WTSAそのものの価値を高め

ることができた。例えば、85以上の展示・デモを行った「WTSA EXPO」、AI for Goodの地域シリーズである「AI for Good Impact India」、女性のエンパワーメントを促進する「Network of Women」、若者を対象としたロボットコンペティション「Robotics for Good Youth Challenge」、アカデミックカンファレンス「Kaleidoscope」など、その数は20以上にものぼった (図1)。

また、WTSA会合の前日に開催されたGlobal Standards Symposium (GSS) では、各国政府閣僚級や民間企業CEOらと将来の技術・標準化について議論する「High-Level Segment」を初開催し (G20首脳サミットが行われた特別ルームを使用)、WTSAのオープニングセレモニーにはインド・モディ首相が参加するなど、これまでのWTSA以上にハイレベルな参加者が集ったことも特筆すべきポイントだったと思う。

結果として、登録者数ベースで3,700名以上の参加者 (164の加盟国からの参加) となり、これはWTSAでの過去最高



■ 図1. 豊富な各種サイドイベント



記録を更新することとなった。女性参加比率は26%であったが、これもスイス・ジュネーブ外で開催されたWTSAでは最も高い比率となり、参加者実数ベースでは過去のWTSAを上回る結果となった。

### 3. 新決議を含む今後のITU-Tの方向性の議論

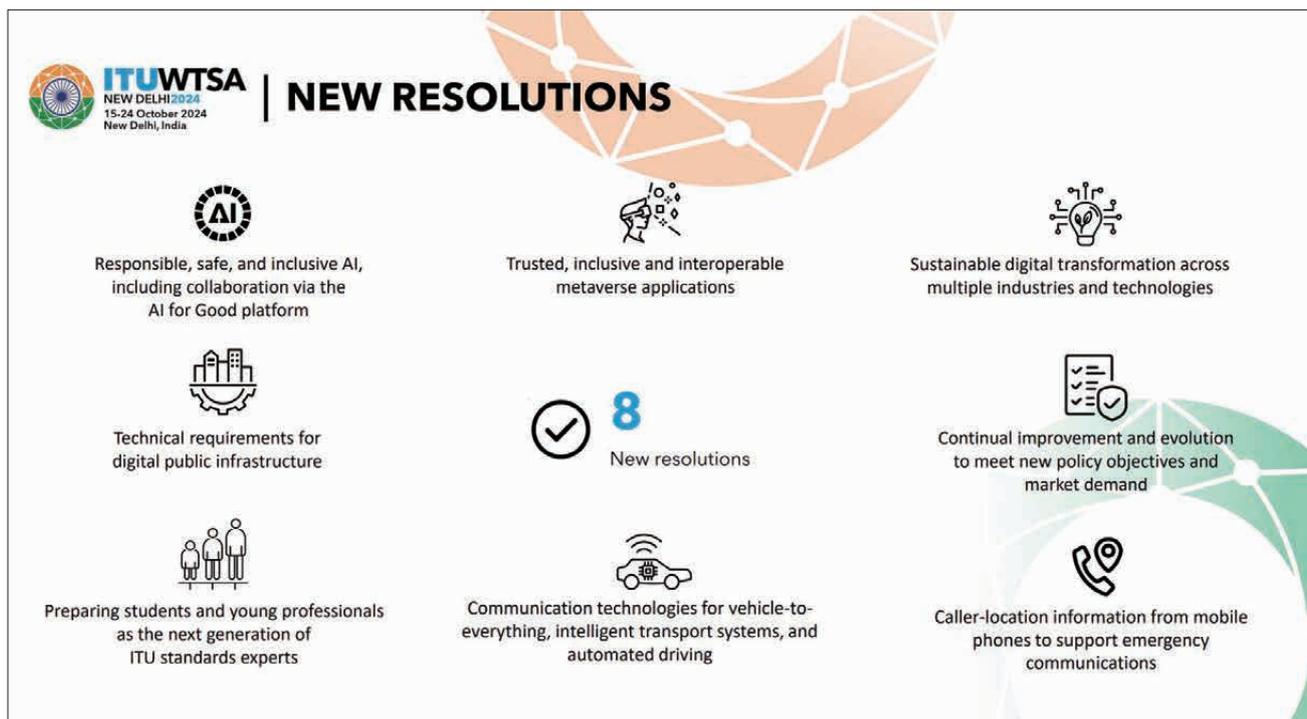
今回のWTSAには従来にも増して210もの提案が入力され、それを僅か10日間の会期の間に行き並行して議論を行い、結果としてWTSA決議に関しては8つの新規決議、44の改定決議が合意されることとなった(図2)。

特に新規決議に関しては、AI、メタバース、デジタルトランスフォーメーション、DPI(デジタル公共インフラ)、車両通信など昨今の技術トレンドに即した標準化の推進が明記されるとともに、次世代の標準化人材育成など将来にわたって重要なテーマについても今後取り組んでいくこととなった。改定決議についても、多岐にわたる決議の文言が追加・修正されたが、特にITU-Tにおける産業界の役割の進化に関する決議68について、産業界のエンゲージメントを一層高めるべくTSB局長やTSAG会合に求められる事項が新たに追加された。

### 4. SG再編及び議長・副議長の選出

今回のWTSAではSG再編も1つの大きなテーマであった。過去数回のWTSAでも議論がなされたとのことだが、SG構成の見直しまでは実現に至らなかったところ、今回のWTSAでは関係者の尽力もあり、SG9とSG16を統合し、新たにSG21(マルチメディア・コンテンツ配信・ケーブルテレビ等の技術を所掌)が誕生することとなった。これは、時代の変化に合わせて効果的・効率的な標準化検討体制への変革を続けていくための1つの大きなステップとなったと信じている。

また、新たな研究会期におけるSGの議長・副議長の選出については、各国・各地域の利害が対立する調整が難しいテーマでもある。今回は会合前の準備段階で1か国1議長までとする原則を定めたことで議長ポストについてはスムーズに調整がしたが、副議長に関してはいくつかの地域に関し会期中の調整がなされた。会合終盤まで各地域や各国の代表と調整を重ね、政治的な問題に端を発した信任投票での決着や一部地域の課題は会合後に持ち越しとなったものの、おおむね会期中に調整が付き合意へと至った。なお、SGの副議長ポストにおける女性の数は前研究会期と比較し20%増加するとともに、WTSA会合自体のリーダーシップポジションに占める女性の数は前回と比較し2倍になったこ



■ 図2. 新たに策定された8つのWTSA決議



とは、ジェンダーギャップ解消や女性のエンパワーメント促進の観点から喜ばしい結果であったと思う。

## 5. 今後に向けて

複数の加盟国代表団から、今回のWTSAは「過去最も成功したWTSAだった」との評価を聞いた。ITU-Tのみならず標準化や技術に関わる多くのステークホルダーを集めるとともに、10日間という短い会期にもかかわらず多くの実のあるアウトプットが合意に至ったことが要因だと理解している。会期中、すべてのメンバーが示したITUの協力と合

意形成の精神に基づく建設的な議論に深く感謝する。今回の成功は、ホスト国であるインドに加えて、裏方として会合運営や議論を支えたTSBをはじめとする多くのITUスタッフの存在なしには成し得なかったと強く思う。

WTSA-24のアウトプットの下で、新たな4年間の研究会期が始まっており、引き続き変化し続ける技術トレンドの下でITU-Tの活動を推進していく所存である。日本の関係者におかれても、引き続きご支援・ご協力のほどよろしくお願ひしたい。



■ 図3. 会合運営に尽力したITUスタッフとともに

## ITUが注目しているホットトピックス

ITUのホームページでは、その時々ホットトピックスを“NEWS AND VIEWS”として掲載しています。まさに開催中の会合における合意事項、ITUが公開しているICT関連ツールキットの紹介等、旬なテーマを知ることができます。ぜひご覧ください。

<https://www.itu.int/en/Pages/default.aspx>